

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の共に歩むの理念をもとにGHの目標を立て、職員個々の目標を作り実践出来るよう取り組んでいる。また、半期ごと上長が評価し、次につなげている。	理念は法人と同じである。それを基に職員は個々に目標を掲げ理念の実践に日々取り組んでいる。会議で理念について話し合い共有を図っている。地域密着型サービスの役割について職員は認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年二回の草刈、お宮や、子ども会の行事、などに積極的に参加し、交流している	近所づきあいは普段の生活の中で行われている。防災や行事など地域の活動にも参加し地域とのつながりの強化に努めている。グループや個人、高校生等のボランティア、小学生の訪問を受けながら交流を楽しんでいる。	更に地域の人々との交流が深められるように事業所の専門性を活かした働きかけ(専門を活かした介護教室、介護相談など)を検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアハウス、GH、デイサービスの合同のコンサートや、救命救急講習会を開き、地域の方々の参加をお願いしている 学生の実習、一般の見学も受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、利用者様の状態、行事、認知症への理解について話し合い、意見を頂いている。自然災害のマップを頂き、緊急時の応援について話し合った。	2ヶ月に一回会議を開催し事業所の活動報告や参加メンバーとの意見交換を行っている。運営推進会議の会議内容が町会会議でも報告されるようになり、事業所のことが地域に浸透するようになった。町会からの運営推進会議メンバーが積極的に地域との橋渡し役を務めてくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	派遣相談員を通じ、利用者様の苦情、悩みをきいていただき、まとめの冊子を職員に回覧し、次のケアにつなげている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、情報を他職員に徹底させる	職員は身体拘束の内容やその弊害を認識している。問題行動がある場合は原因や理由を探ることを行ない、ケアを見直し業務改善を行なうことで拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様への尊厳、接遇の大切さを職員全員で学び、共有し、訓練している		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、情報を共有し、話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を事前に行い、十分に納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	派遣相談員を通して、苦情、悩み事の冊子を頂き職員に回覧し次に繋げ、家族には口頭、意見箱など利用して頂いている	意見、要望を気軽に何でも言ってもらえるように家族等と話す機会を積極的に設けている。頂いた貴重な意見、要望は皆で検討し運営やサービスの向上に反映させている。家族会は年2回開催し、意見、要望を伺ったり食事会で親睦も図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中、ミーティング、個人面談を行い、意見提案を上長が把握し、反映させている	職員は業務上の目標を持って入居者を支援している。施設長は年2回個人面接を欠かさず、また管理者として日常的に職員等と話す機会をつくり意見や要望を聞くようにしている。会議では活発な話し合いが行われておりアイデア、意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見思いを聞き、その職員に合った勤務形態にし、働き易くしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、資料を持ち帰り、職員で共用している 接遇については、特に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会への研修に参加し、他のグループホームの取り組みなどを参考にしている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個性を大切に、今までの生活歴、環境、性格、趣味や、困っている事を本人、家族から頂、その時々に応じた個別ケアが出来るよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が、安心、信頼のおける人間性を作る事に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の幸せは何かを把握し、ケアプランを作りそのときに必要な支援をしており、他のサービスも利用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬、理解し、日常の課題、行事、、昔話に共感し、時には知恵を頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は自由に来て頂き、写真を撮り、次の面会に楽しみになるようにしている 共に歩むを大切に、こちらからの要望も家族に伝えて協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前のケアマネに近況を知らせ、近所の方の訪問も自由にして頂いている	入居者の人間関係や生活関係を把握している。友人の来訪や馴染みの美容院に通い入居前からの関係を維持している。年末やお正月、お盆には自宅で過ごすなど昔から楽しみにしていた習慣を家族と連携しながら継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶のときの会話が継続するよう見守り、利用者同士居室を行き来している時は、お茶をなどを入れ、見守りを行っている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方へは、お見舞いをしたり、家族へ電話したりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人その時々に応じた希望、思いに添えるよう努力している	日々の会話の中から本人の意向や希望を把握している。意思表示が困難な場合は表情から読み取ったり家族の話などから本人本位に検討している。入居者と職員の関係は自然で、表情やしぐさでその日その時の気分を計り知ることが出来るようになってきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を本人、家族、ケアマネに収集し、ケアプランを作成し、ミーティング、カンファ時に職員間で共有する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、排泄状態、顔色など観察し、変化を見逃さないようにし、ミニカンファで共有し、次へ繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	外出、外泊時の状態を聞いたり、グループホームで変化があった時は、報告したりして、現状に即したものにしており、三ヶ月に一回見直しを行っている	入居者が入居後本人らしく生活できるように家族や職員の意見を聞きながら計画作成担当者が作成している。定期的に評価も行っている。状態に変化があったり計画が継続できない場合には介護計画を直ちに作成し直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートへ記入し、ミーティングで話し合い情報を共有し次へ継続している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、面会時における家族の気付き、要望などを取り入れ、サービス改善に繋げている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、派遣相談委員、町会長の訪問を通じ、情報交換や協力を行っている 年二回の避難訓練には地域の方の参加もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を利用している方もいます。	入居者家族の希望するかかりつけ医となっている。入居者の状態に変化が生じたり病状が急変した場合はかかりつけ医、協力医療機関に連絡し適切な医療を受けられるように体制が整備されている。看護師が各ユニットに配置されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週三回訪問看護があり、爪きり、耳掃除など適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は往診医のもとに、早期に入院できる病院の看護師、リハスタッフ医師とも往診医を介して顔なじみなのでスムーズに行く		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、スタッフとの話し合いをしている	重度化や終末期のあり方に関して入居時に家族に説明している。重度化した場合は家族と繰り返し話し合っている。医師、訪問看護師の協力を得ながら看取り支援を実践している。家族が宿泊しながら最期の時を迎えたこともある。また、入居者の方たちもそれを自然に受け入れお見送りをしたと伺った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変についてのマニュアル、医師指示書があり想定訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウス、デイサービス、グループホームの合同避難訓練を年二回実施している 地域との協力体制があり詳細について運営推進会議で話し合っている	消防署の指導を受けながら年二回夜間、昼間を想定した避難訓練を行っている。町会長は事業所のサイレンが自宅にいて聞こえるか聞こえないかを確認し、確実に聞こえるようスピーカーの向きを直したほうが良いと提言してくれた。地区災害対策に関しては町内会でも対応策が練られており、地域の防災マップも配布され、それを基に事業所内でも万が一に備え話し合っている。	

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには特に気をつけ、周りへの配慮へも考えている	支援を行うときにはさりげなく声をかけて行うようにしている。一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、希望や思いが出やすくなるような言葉掛けにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、本人の希望、意志を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類、化粧品など本人の希望により、一緒に買い物に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付け、お盆拭きなど出来る利用者にはやっけていただき、好きな食べ物の話をしながら楽しみとなるように心掛けている	その日の献立は食事当番が入居者に今日は何を食べたいのかを聞いてから決めている。一人ひとりの半月形お盆には懐石料理のように彩よく料理が盛付けられた大小複数の器がのせられていた。入居者の「この食事は美味しいよ」との言葉には毎日の食事を楽しみにしている様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、十分な水分摂取を考えて作っている。またその他にもジュースやお茶、ポカリスエットを用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、週二回の入れ歯消毒を行い口腔内の清潔に努めている		

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁による不快感を最小限にするため、排泄パターンをつかみ、声掛け、トイレ誘導している	排泄パターンを活かしながらトイレでの排泄、排泄の自立にむけたケアを行っている。また、排泄表をつけながら失禁などがあれば声がけの時間をどのタイミングでしたら良いか話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促す食事、散歩など体を動かすにも気を配っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回以上入浴できるよう支援している。入浴嫌いの方には無理せず、言葉掛けに気を付け気分のいい時に入浴して頂いている	毎日でもあるいは就寝前でも希望があればそれに合わせた入浴支援を行うようにしている。嫌がる入居者には言葉掛けを工夫し、本人の気分の様子を見ながら声をかけるなど無理強いないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠は換気、室温の調節をし、熟睡できるようにしている。昼休みは自室や、ソファで自由に休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用量について学び理解している。誤薬の無いよう注意し、体調変化のときは、医師に連絡し、服薬調整をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、針仕事、折り紙、編み物など関心のあることをして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物行き、季節を感じたり、デイサービスやケアハウスに行き、コミュニケーションを図っている。介護車を購入し、車椅子の方も外出できるようになった。家族の協力により、家の行事にも参加している	ホーム周辺の散歩やベランダでの外気浴で気分転換を図っている。個別の外出支援は希望があればその都度対応している。リフト付き介護車が導入されたので車椅子使用の入居者も気軽に外出できるようになった。	

グループホームなごみ・茜棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフで管理しているが、お金を所持し、買い物をしている利用者もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛けてあげたり、自由に掛けている方もいる 定期的にお便りを下さる家族があり、本人も喜んでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには生け花、観葉植物を置いたり、季節感のあるのれんを掛けたりしている。 静かな音楽を掛けたり、空調にも配慮している	入居者は日当たりの良い居間のソファや椅子に座り、眼下に広がる松本平や遠くの北アルプスを眺めながら談笑している。時折、目の前の道を歩く人に会釈する。壁には行事の写真や入居者の作品も飾られている。入居者はこの居間で一日の多くを職員と一緒に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、一人で休息したり、仲間で談笑している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人、家族、職員と相談し、馴染みのあるものを置いている	一人ひとりが安心して自分の居場所として過ごせるように愛用品や使い慣れた物などが持ち込まれていた。ベッドの位置だけは職員が配置し、入居者の状態変化を観察しやすいようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なもの、不安になる物などは取り除いたり、繰り返しよく説明している		